

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

	学校	教科	種目	学年
	高等学校	芸術	書道Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6 教図	書Ⅲ 702	書Ⅲ		

1. 編修の基本方針

自分を知り、相手を知る。そして、共感する心を養う。

本教科書は、「教育基本法」に示された教育の目標と高等学校学習指導要領に示されている内容に基づき、「書道Ⅰ」及び「書道Ⅱ」での学習を基礎にして、幅広い書道の学習に取り組めるよう、次の点に配慮して編修しました。

1. 生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わることを目指す。

『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』の二冊で学習してきた書道の基礎・基本を、『書Ⅱ』では、段階的・系統的に、各領域の内容を詳しく広く学ぶことで、幅広い知識と技法を身に付けることを目指しました。『書Ⅲ』では、そこからさらに、書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指し、内容の充実を図りました。

2. 自分を見つめ、表現することを積極的に楽しむ姿勢を養う。

「書の古典や名筆」には、普遍的、恒久的な美しさだけでなく、斬新さや奇抜さ、独創性にあふれたものが数多くあります。表現者という立場で臨書することによって、真の自分と出会い、自分らしさとはどういうことなのかを考える、そのような経験を積み重ねることで、芸術を創造的に味わう力を養うことができます。臨書によって自分の存在を確信し、本当の意味での表現の楽しさを実感する、そしてそこから、創作という自己表現の世界へと羽ばたく、そんな書道の醍醐味を味わえる構成の工夫をしました。

3. 表現と鑑賞の往還で、書に対する見方・考え方を深める。

自身が表現者である場合、表現と鑑賞は常に往還しています。そして、創作が目標である以上、表現と思考は一体となり、さらに、直感的・分析的な鑑賞と往還することで、書に対する見方・考え方は深まって、自己表現の実現にグッと近づきます。鑑賞で得た実感を自身の表現へと還元する、それこそが表現者の目標であり、芸術の楽しみです。「書Ⅲ」であるからこそ、芸術に親しみ、豊かな感情を培うことができるような内容に配慮しました。

4. 書を通して、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育成する。

書は言葉を書く芸術です。多様な文字や書と豊かに関わることで、人と人、心と心のつながりを実感することができます。言葉が持つ力、言葉を書として表現したものの持つ発信力を、生活や社会の創造に生かしていく。高校での書道の学習を締めくくるにふさわしい、壮大な書の意義を理解できる未来思考の教科書を目指しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>目次</p> <p>■書を知る</p> <p>書くきっかけはそこかしこに 臨書と模写はどう違うのか</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付けるために、書道Ⅰ・書道Ⅱで学習した知識や技能の確認と、書道Ⅲの展望を示しました。[第1号]</p>	<p>p.002-003 p.004-006</p>
<p>表現を知る 書</p> <p>■表現を知る</p> <p>思いを形にするために 小臣餘櫛尊 散氏盤 郭店楚簡 長沙子彈庫楚帛書 礼器碑 西狭頌 張遷碑</p> <p>自分らしさ・あの人らしさ 喪乱帖 魏靈藏造像記 皇甫誕碑 多宝塔碑</p> <p>●顔真卿の書風の変化 光明皇后臨樂毅論 金剛般若経開題残巻</p> <p>●多彩な顔を持つ空海の書 頭弁帖 古今和歌集の古筆 曼殊院本古今和歌集 継色紙 関戸本古今和歌集 亀山切 料紙装飾と書の調和 万葉集の古筆 金沢本万葉集</p> <p>●五大万葉集 私家集の古筆 一条摂政集 中務集</p> <p>多様性の先に広がる可能性 士大夫の文雅な世界 明清に花開いた個性 金石学と書 方寸の世界に遊ぶ 言葉と書の響き合い</p> <p>■書を知る 書論が教えてくれるもの</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、各時代を代表する古典を教材として選定しました。[第1号]</p> <p>○他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、漢字誕生の国・中国を象徴するような写真や図版を選定しました。[第5号]</p> <p>○幅広い知識と教養を身に付けるため、書体の特徴や歴史、能書と呼ばれる人物について深く学習することができる内容を設定しました。[第1号]</p> <p>○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するために、仮名の書と日本の言葉の関わりを示しました。[第5号]</p> <p>○幅広い知識と教養を身に付けるため、平安時代の文学と仮名の関係について、深く学習することができるようにしました。[第1号]</p> <p>○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するために、漢字と仮名による日本語の表記の歴史を示しました。[第5号]</p> <p>○自主及び自律の精神を養うために、生徒自らが漢字や仮名の学習を振り返りながら漢字仮名交じりの書の表現に取り組めるような構成としました。[第2号]</p> <p>○創造性を培い、自主及び自律の精神を養うために、主体的に構想し、創意工夫する単元を設定しました。[第2号]</p> <p>○伝統と文化を尊重するために、書と深い関わりのある印の歴史について学習できるように設定した。[第5号]</p> <p>○作品を鑑賞し他者と意見を交換することで、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う単元を設定しました。[第2号]</p> <p>○公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、身の回りの書を観察し、その意義について考えられるようにしました。[第3号]</p> <p>○作品同士を比較しながら鑑賞し、他者と意見を交換することで、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う単元を設定しました。[第2号]</p> <p>○伝統と文化を尊重するために、書の論評である書論について学習できるように設定しました。[第5号]</p>	<p>p.007-058</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>鑑賞を知る 書</p> <p>■鑑賞を知る</p> <p>今、何を感じますか？</p> <p>鑑賞ナビ</p> <p>線①</p> <p>線②</p> <p>字形①</p> <p>字形②</p> <p>構成①</p> <p>構成②</p> <p>リズム①</p> <p>リズム②</p> <p>間①</p> <p>間②</p> <p>墨①</p> <p>墨②</p>	<p>○作品同士を比較しながら鑑賞し、他者と意見を交換することで、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う単元を設定しました。[第2号]</p> <p>○幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うために、書のさまざまな形式について学べるように配慮しました。[第1号]</p>	p.059-085
<p>■芸術へのいざない</p> <p>書に学んだきみたちへ</p>	<p>○公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画するために、生活の中にある書を示しました。[第3号]</p>	p.086-087
<p>資料編</p> <p>日本・中国の書と周辺文化の変遷</p> <p>中国と日本の書道史関係地・資料参考地図</p>	<p>○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、書の歴史や地理資料について確認できるように配慮しました。[第5号]</p>	p.088-095

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第51条に示す、「豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養う」ために、以下の点について編修上の工夫をしました。

○表現と鑑賞の往還学習に配慮した構成

表現の学習を主体とした書道Ⅰ「書Ⅰプライマリーブック」・書道Ⅱ「書Ⅱプライマリー（編）」と、鑑賞の学習を主体とした書道Ⅰ「書Ⅰ」・書道Ⅱ「書Ⅱ」の編集方針を引き継ぎ、書道Ⅲも、教科書の前半領域を「表現を知る 書」、後半を「鑑賞を知る 書」としました。表現のための鑑賞、表現へ還元する鑑賞の実践に配慮しています。

○鮮明な図版の印刷と、書の作品を際立たせるゴシック体フォントの活用

鮮明で臨場感のある肉筆や拓本図版と、それら古典の印象を際立たせるため、タイトルや本文の書体をゴシック体で統一し、すっきりとした紙面を実現しました。

○明るく見やすい紙面レイアウト

判型は「A4」を採用し、古典の図版をゆったりと原寸大で掲載したり、適度な余白を持たせることで、すっきりと明るく見やすい紙面になるように工夫しました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

	学校	教科	種目	学年
	高等学校	芸術	書道Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6 教図	書Ⅲ 702	書Ⅲ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- ①生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わることを目指します。
- ②自分を見つめ、表現することを積極的に楽しむ姿勢を養います。
- ③表現と鑑賞の往還で、書に対する見方・考え方を深めます。
- ④書を通して、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育成します。

●構成と配列

表現に軸をおいた「表現を知る 書」と、鑑賞に軸をおいた「鑑賞を知る 書」の二編による構成
表現と鑑賞の往還学習が可能ないように、学びの道しるべを活用し、それぞれを構成しました。

表現を知る 書



p.008-009



p.028-029

書道Ⅰ・書道Ⅱを踏まえ、書道の学習の基礎・基本を習得しながら、幅広い古典の臨書や、創作に意欲的に取り組めるように配慮しました。QRコードで美術館・博物館のサイトとリンクし、さまざまな情報を習得できるようにしました。

鑑賞を知る 書



p.060-061



p.074-075

「鑑賞を知る 書」編では、今の自分に正直に、素直になって、等身大の鑑賞から始めることを提案しています。自身の表現に生かせる鑑賞の方法を、導入としてp.061の鑑賞ナビで紹介し、近現代の書を6つの視点で鑑賞します。

書を知る・芸術へのいざない



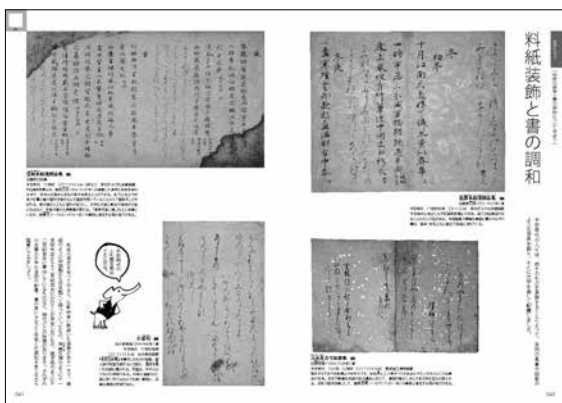
p.004-005



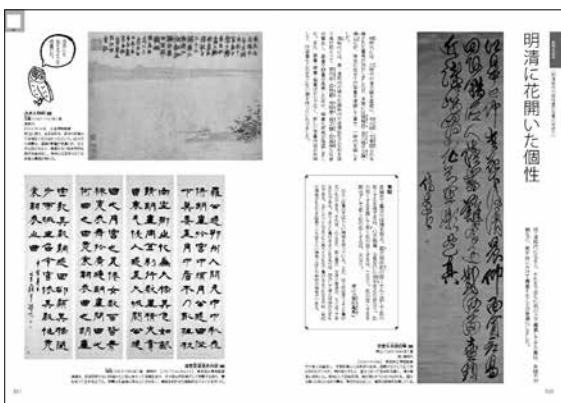
p.086-087

書道Ⅰと書道Ⅱの学習の振り返りと書道Ⅲの学習の展望を、p.004-005に、書道Ⅲの学習を終え、社会へ旅立つ生徒へのエールを、p.086-087に掲載しました。

表現を知る 書



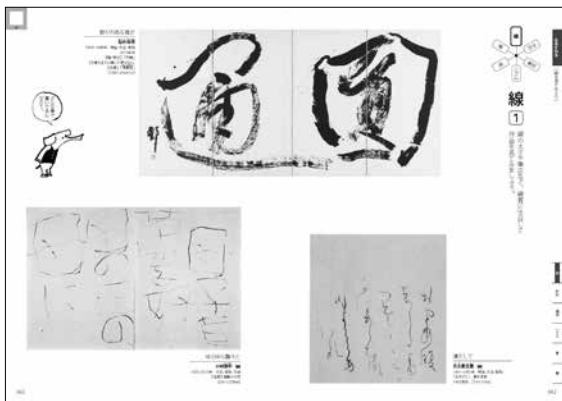
p.040-041



p.050-051

漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書を、時代の流れと共に追いながら、書風や表現の形式がどのように変遷したのかを概観することができ構成・配列としました。

鑑賞を知る 書



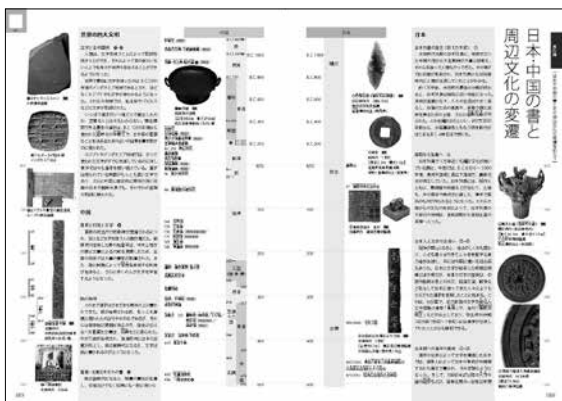
p.062-063



p.072-073

鑑賞の仕方がわからない、感じるものがない、どこをどのように見たらよいかわからない、そういった鑑賞の疑問に答える、やさしくわかりやすい鑑賞ナビ付きのページを、豊富に用意しました。

資料編



p.088-089



p.094-095

巻末には、年表も兼ねた書道史の学習のための、日本と中国の書と周辺文化の変遷と、古典の関係地図を掲載し、書道の通史の学習と、古典の所蔵先等を地理的に学べる資料を掲載しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容				該当箇所	配当 時数
	A表現	B鑑賞	共通事項	内容の取扱い		
■書を知る 書くきっかけはそこかしこに 臨書と模写はどう違うのか	(1)ア イ ウ (2)ア イ ウ (3)ア イ ウ	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (ウ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p.004-006	
表現を知る 書 ■表現を知る 思いを形にするために 小臣餘櫛尊・散氏盤・郭店楚簡・長沙子彈庫 楚帛書・礼器碑・西狹頌・張遷碑 自分らしさ・あの人らしさ 喪乱帖・魏靈藏造像記・皇甫誕碑・多宝塔碑・ ●顔真卿の書風の変化・光明皇后臨樂毅論・ 金剛般若経開題残巻・●多彩な顔を持つ空海 の書・頭弁帖・古今和歌集の古筆・曼殊院本 古今和歌集・継色紙・関戸本古今和歌集・亀 山切・料紙装飾と書の調和・万葉集の古筆・ 金沢本万葉集・●五大万葉集・私家集の古筆・ 一条摂政集・中務集 多様性の先に広がる可能性 士大夫の文雅な世界・明清に花開いた個性・ 金石学と書・方寸の世界に遊ぶ・言葉と書の 響き合い	(1)ア イ ウ (2)ア イ ウ (3)ア イ ウ	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (ウ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p.007-057	
■書を知る 書論が教えてくれるもの	(1)ア イ ウ (2)ア イ ウ (3)ア イ ウ	(1)ア(ア)(イ) イ(ウ)		(1)(2)	p.058	
鑑賞を知る 書 ■鑑賞を知る 今、何を感じますか？ 鑑賞ナビ 線①・線②・字形①・字形②・構成①・構成②・ リズム①・リズム②・間①・間②・墨①・墨②	(1)イ (2)イ (3)イ	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(ウ)	(1)アイ	(1)(2)(3)	p.059-085	
■芸術へのいざない 書に学んだきみたちへ	(1)イ	(1)ア(ア) イ(イ)(ウ)	(1)アイ	(1)	p.086-087	
資料編 日本・中国の書と周辺文化の変遷 中国と日本の書道史関係地 資料参考地図		(1)ア(ア) イ(イ)(ウ)		(1)(3)	p.088-095	
					計	

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

	学校	教科	種目	学年
	高等学校	芸術	書道Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6 教図	書Ⅲ 702	書 Ⅲ		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
合 計				0

(備考)

4. 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。

- ・学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
- ・学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2